当流

茶之湯評林大成

八

438

茶湯評林巻之八目録

凡例
茶入之蓋挽
茶入袋師
茶入御物袋師
茶入繕師
古新切屋
紫帛物處
塗道具師
御数寄屋家具師
釜細工
茶筅師
茶杓細工
柄杓師
木地炉縁師
灰屋
竹細工
自在師
折木盆并外指物細工

堆子塗師
錫ノ細工
奈良風炉細工
贄土器師
粟田口焼物師
清水焼師
瀬戸焼問屋
肥前皿山問屋
古紙繕師
池田炭

伊予すたれ師
棗中次塗師
深草風炉細工
半田焙烙師
楽焼師
御室焼物師
備前焼問屋
表具師
数寄屋火箸細工
白炭

湯沸竹細工
羽箒細工
曲柱蹄柱屋
銅細工
裏付革草履
薫物屋
食籠壷網打緒師
額彫
天目金銀覆輪師
法論味噌屋

籠細工
垂撥師
皮付木屋
赤金細工
数寄屋色付屋
古筆目利
唐木屋
青貝細工
大仏餅
香比物屋

精進肴割物屋　肴菓子屋
御茶菓子　盆庭師
石屋　茶磨屋
ひしほ味噌煮梅

茶湯評林巻之八

凡例

邦畿千里惟民所止也とこそ都ハ物ゝ名人名師
細工民上手あつまる処也各有所當止之處也
分茶之湯ハ道具多くいらぬ近代御世にも人有
志つくひく細工も沢山に總仕習我一くと勤故
自然と上手になる也又宗匠も代ゝ都より住ざる故
細事ともなんかひ仕覚え古法を守るに事ハ仕様此
方便も能たてし此物数寄なんぞんと都より何ゆる
故ニ寺院田舎なとまちまちく所此様下ハしかく

道具を求(モトメタキ)とおもふを中使(ナカツカヒ)引役(ヒキヤク)してあやし道家
内外方ハ上ハ一方道具をもかしらるよ高下(カウニキ)よ下(カヒクタ)し
都ハ中道ハ道も絶と汁先作る事多しけ都の
細工人ハあく粗(ホク)細工人ハ何ひをしく了じひ聞ニ作(キク)を
とらへも不作(レナ)る事之ヲ一字道の功好(コノミ)細工人(チニン)の数
多を仕売(レヲホヘ)る細工(サイタ)人ハ調法(テウハウ)ある事之故ニ評林(ヒヤウリン)ニ
塗師(ヌシトヒ)の紀を残昔(ハレムカシ)事(コト)をかきたるをおひ部し極(キハメリ)
たる作物ハ手本ニは出入(カキイレ)道具るべきもの之又無地(タニ)
の塗ものも上細工人ニハ作(イツハリ)る心ぎ物之殺[illegible]
を細工の名を居所(イトコロ)をしるし 紀見(ニルヒ)之

一茶入之蓋(フタ)茹(ヒキ)上細工師

茶入の蓋　巣蓋　巣(ス)腸　ヘイヂ蓋　ヒヤウタン蓋
シチコミ蓋　剜蓋　クワン蓋　平蓋
色付蓋　ナミ蓋

棗中継(ツギ)頭(ズ)切　タガヤサン　クワリン　ゾウゲ　トチ　紫タン
黒タン　黒カキ　エンジユ　定リン

茶入の茹(ヒキ)敫(カタ)　トチ　紫タン　黒タン　ニユミ
ツゲ　黒カキ　白カキ　梅

茶入の撥(ヒキ)家　タガヤサン　クワリン　ゾウゲ　紫タン　黒タン
黒カキ　白カキ　ツバキ　サルスベリ

織物の紬(ヒモ)　ソウケ　黒タン　シタン　白柳
シユカキ　トチ　エンジユ

茹(ヒキ)香炉　同上　香炉の底く

一茶入袋上細工師

京寺町通たこ薬師下ル町　御蓋屋平兵衛

京寺町通二条下ル町　御蓋屋左次兵衛

茶入真袋　茶入袋　茄家袋

茶入河々笋ノ　壺の河々

茶入長緒色々　壺口おふひ

壺乳緒　取緒　茶碗之袋

壺袋　緞子袋

壺袋　高麗袋

京四条通堺町東　御袋師佐吉大夫

一茶入御物袋　袋云　茶碗　香炉　香合　何もも

京新町通四条上ル町　御袋師　源兵衛

一茶入緒師　茶入茶碗

京四条通烏丸西へ入町　茶屋五郎

一古新袋切屋　茶入茶碗　掛物　表具切色々

京烏丸通六角下町　袋屋加兵衛

一紫帛紗　代銀壱匁より八匁まで　高下これ有

京二条通東洞院西へ入町　帛紗　九郎兵衛

同烏丸通三条下ル町　まんぢうや　帛紗　和泉

一塗道具

塗縁　たんけい　路地行燈　塗片口

・数寄屋行燈　小板　薄板　萬品大小有之

京烏丸通錦小路上ル町　ぬし道恵

同三条通烏丸西へ入町　ぬし　又左衛門

一御数寄屋御道具師

利休形　遠州形　宗和形

御書院御道具　御数寄屋御道具

日本八景其外名所之詩板　古文字　八分字　楷書　入木道　有之

蒔絵細工　南風朱絵之道具打敷

大冷し煮皿　色々之物好有之

平打金類　鮮明有之　　種々之形板

打敷 打出し色々有之

吸物椀　鉢　膳　塗替　種々十人前有之

菓子椀之類　餅椀之類　麺々菓子盆

楾皿之類　御成椀之類　湯盆　湯次

飯次　塗重　塗八寸　塗へぎ

数寄屋重箱之類　品々有之

右之書院数寄屋道具等古新とも考物数寄大様にして

能物商道具師之

京新町通丸太町下ル町　八幡屋　新兵衛

一釜細工

釜種々形替切形古来之図有之

丞浅古新品有　鉄(テツ)風炉
京釜屋二条上ル町　釜屋浄味
一茶筌師　高山城八合の茶よりの下段こそ合台　をよめますくとも
色付竹　紫竹　斑竹　白竹
大和国高山村　久保(ボ)信濃(シナノ)
同所　茶筌師　庄左衛門
茶杓細工
利休　織部　遠州　甫(ホ)竹　瀬田(セタ)掃部(カモン)
宗和　片桐(カタキリ)石見　宗甫　佐久(サク)間　紹鴎(ジヤウヲウ)
此外常甫　いづれも此風情絶げなる

京寺町通二条上ル町　竹屋　一斎
一柄杓上細工師
炉(ロ)柄杓　代銀壱匁ワキカタ　風炉(フロ)柄杓　代銀壱匁ワキカタ
伝曰炉柄杓と風炉柄杓ハそのまゝなる合(カウ)下(ケ)にて異なる
きハ炉ひらくる代早(ヒキ)さハ風炉ひらくつぼ合より大きな
る衡(ガウ)氏重きハ風炉柄杓柄比(ソモ)重きハ炉ひらく
指柄杓　代銀三匁　恵泰(エジ)酒胴(ストウ)　将監釈(シヤウゲントク)　右之代銀壱匁ワキ釈
衡(ガウ)柄杓　又斗(ハカリ)ひらく也　代銀壱匁　何れも此分子柄杓ハ代銀下地落
伝曰斗(ハカリ)柄杓(ヒシヤク)と云ハ濃(コイ)茶を點(タツ)るよこゝろミて
叶ふを絶かげんよゆくのたのもしき家(イヘ)也大事とする

さて御合評の御香ときは揃ひて濃茶をもとに御試

ところ中へたとへば數は濃茶をもちて御かけ入置其

茶を茶碗に二十目入もちて御代ひとつくに湯を一かよひ入

それも外の茶碗へ入る點てみるにつつくるこそ前はもと

茶はいきもち揃凡客三人の用進にかかりつる八の人

事まで揃せる事は柄杓に右事の衛をいたし濃茶の代

御言にて家の大事よしして外にさしかへし若御柄

杓を揃ひ人の外の細手の人をもちて濃茶を立へ

たまちかふすこし依て古へより名人の柄杓とし

家にてよきつかはする

京東洞院通竹や町上ル町 柄杓師 宗言

同 綾小路通り倉西へ入町 同 玄竹

一 表物縁師

さいあん縁 黒柿縁 澤栗縁

くろし紗縁 定あん縁 こち縁

京東洞院通恵美須がし上ル町 縁屋 久八

一 灰屋

織部好時代の灰 代銀一斗ニ付 四匁

同 凡妙灰 代銀一斗ニ付 三匁

滑石灰 色付のもの 玉

右の外 茶湯灰汁道具 宗丹流の竹 箒

京四条通柳の馬場西へ入町 茶屋庄兵衛

一竹細工

炭取(スミトリ)炉縁 柄杓 水翻(コボシ) 風炉先

ひ 円座(エンザ)の数寄色々 羽箒(ハボウキ) 花生竹

自在(ジザイ)竹 月かき 茶杓竹 刀掛(カタナカケ)の類(ハナ)よりある

[illegible] 雪隠(セッチン)の内よりある品々 流しの箒

其の外 花(?)箒 よりある羽箒

右此外自余の細工 其外

お茶入(トハラク) 茶杓 茶筌(サン) 何にても 炉縁

大名(ハン)の数寄色々 一尺よりいろいろ色々 そこ取

炉ふた 小炉ふた 風炉長(ナガ)ふた 小板 中板

地口炭(ズミ) 白炭 香台風炉 深草(フカクサ)風炉

おき炭 風炉炭 くぬぎ炭 炉の角切 炉壇(ロダン)地蔵(ソコ)の曲尺

金輪(カナワ)の緑(ロク)子(コ)の曲尺 風炉土器(カハラケ)土の曲尺 土団(ハンダ)

古鍋 数寄屋箸 数寄屋箸 肴(サカナ)箸

遠州茶菓子(クワ)楊枝(ヤウジ) 竹の皮つき 宗旦(ビッテン)竹箸

手水所大釣瓮(ツリカケ) 数寄屋指かさ

寒(カン)中手水桶 遠彦の曲尺を入れ差(サイ)し入れ

右の道具の外何にてもくし新物(リ)の道具 吉兵衛方よりまで

京四条通御旅(タビ)町大龍(リウ)寺下で 竹屋吉兵衛

一 自在師

遠州流の自在　遠藤元閑ニ而傳當尺を以作る　台帳下ス

傳云　遠藤去年自作遺す八自在の目の天井の板より

妙縁まて何尺何寸なりと節下之八竹を節のきは

とを任何寸の自在の目も其上下節際より切

かへし小ぎるをも天かざしをも深深尺之八竹の上

もあり　竹輪色々の竹を切

池田炭　一本　種々の割炭　筋違炭切

輪炭　五寸の輪　三寸の輪　遠藤元閑ニ而傳をへ　切之ト

傳曰　輪炭を寸八寸の輪を切さし割たり又八かけ

中く切ふくしまして五寸三分の小口寸をも置炭ハ

左より切せそし割切炭をも十なる様つハ天寸の丸炭一つのくも

けはきたるくより切之名人の輪切之事数々のきしせく

置てくるまく後くくらしく記畢

京錦の小路烏丸東へ入町　竹屋十兵衛

一 指物上細工人

利休好卓　付台子盃　古木之寸法を　五寸五分の古木寸法を

織部の釣瓶の水指　遠州流ニ而ハ遠藤元閑寸法傳候之

傳曰　利休好の盃　釣瓶の水指より八寸の遺様の大事の寸法在之

茶子摺子　棚盆子　傳栢　左右の文を

棲楊棚（セイヨウ）　利休棚　小倭棚　遠州好棚
ひらたん棚　二重角たな　東山短檠（タンケイ）
まいぎり　小板大小　薄板角丸とも
さらう箱　菱かざり　切献上箱　あき封入　半まる入
桐地大棚　象牙師ある人前へとるべし　くすぜう
茶入　茶碗地上色々　相板トチラ九こ立ち棚止　不審石タハミ
遠州形　宗和形　中納言形　上は仙日小松中納言様也
仕日けしき色地形よ付色々地物ぞさまざま大方ハ右地々
以少ぬき挿へぬいかでへべし
京烏丸通仏光寺上ル町　磯部（イツ）太兵衛

一　茶器　塗師（ヌシ）
京河原町通西洞院東へ入町　塗物屋久左衛門
中棗茶子　及台子　小棗子
たばこ盆　香炉箱（シンテ）　まきたばこ小倭盆
まきたばこ行灯口（カタ）　其外塗物色々
京小川通たこ薬師上ル町　如し　喜兵衛
一　伊予（イヨ）すだれ細工
色紙窓　風炉先窓　躙（ニジリ）上り上窓　下地勝手窓
物見窓　雪隠窓　伊予すだれ切る寸法定法
よしすだれ　丸竹すだれ

一 錫細工人
京三条橋町池上ル町　京錫屋 庄兵衛
湯鑵 大小　錫中次大小　錫茶碗　同水次
湯壷 紗包入 同竹入　錫挽物大小
茶湯水次湯次 壱ツ入 一揃代銀
右利休風遠州風宗和風いづれなりとも御好次第
よく細工仕其外何にても錫細工仕候
京錦町通竹屋町下ル町　錫屋孫兵衛
一 棗中次塗師　能棗を見立十月朔日まで 仕上り申候
京新町通竹屋町上ル町　八幡屋新兵衛

一 炉釜細工人
上箱代炉釜　並箱代炉釜　上箱代銀五匁 並箱代銀五匁
別誂炉釜形釜　丸炉釜　於土炉
京三条橋町池之上ル町　左官 長兵衛
一 土風炉細工人
利休形其外張抽足大　遠州形乳足小
同方釜風炉中　雲龍釜風炉丸也
鍔釜其外風炉　大肩切 はしの大口切 并其外品あり
縁付釜廿五寸七八分より上り　長サ四寸余
四方付其外色々有之

待日奈良風炉ハ新古とも素焼と云故に土器とも云ハ
素焼を叩く焼申ハ水を吸とる故あれハ土を後
入る由ハひびき付物之故に風炉ハ必湿を持
土を入るといへ共茶湯を仕る時所を灰中ひ
箱へ入置べし
右土風炉ハ近年此頃いつまでも代銀を取くおわ
ある仕立も叩きハ古きにたり
京五条通と云所とあひの町西へ入ル町
奈良屋宗全 作 同善五郎 子

一 深草風炉 細工人

大小此黒風炉 赤きと黒と入交る物也
九風炉 仕付奈良細工とハ大きにちがひ下作之
深草町 仕立海道之 播 左清
同下 二所左衛門

一 おち焙師 宗全弟子なり

一 土田メ 焙烙師
京西本願寺前通上柳町下町 籠
茶碗叩きなると云ふの焼 新通之

一 粟田口焼物師
和泉ハ同村 玄斎

茶碗　此方様曾ニ至ル門斎茶碗上ル
茶入　水指　花生　香箱　水翻
皿　鉢　釣舟　直
京粟田口南かは　焼物所九左衛門

一 楽焼師
茶碗　黒代廿匁　赤代三匁
ほうろく　油付　下皿　水指
茶入　香箱　蓋置
京油小路通一条上ル町　楽焼　吉左衛門

一 清水焼師
茶碗　釜　水こぼし　香炉

花入色々　皿　直　鉢　大入　火吹
京清水通五条坂下　焼物師　清兵衛
一 御室焼物師　昔日本茶入ト彼焼物師へ油を入ても漏る事なし　故ニ今茲此焼物と云
茶碗　水指　水こぼし　花入
御室此外一不　野々村仁清
昔日本水鉢ニ水を入寒中ニ置てもこほる事なしと云

一 瀬戸焼同座
茶入
茶碗　濃　薄　水指　水翻　蓋置
花生色々　手水鉢色々　皿　直　鉢
京四条通高倉西江入町　[illegible]

一 伊賀焼同座

香爐　獅子牡丹　塩屋庄五郎　犯獅子　向獅子
鞍置る　甘ゝき　人丸　太鼓　塩屋
布袋　岩鷺　虎　龍　人形色々
庭鳥雌雄　浮る　蓮　猩々　兎
傳云 備前伊部やきも　けし紋ハ寺尾次郎兵衛
◇けし紋ハ森村弥五郎 并人ハ、双上細工人けし紋なし
水指色々　花生色々　水瓶色々　手水鉢
水むね壺　傳曰 阿蘭陀水ハ破壊よ水を汲出し垂ハ 能水をとまし水かけを浮る壺をさる
大小むら鉢　傳曰 毎を浮る中へ八一入
　同
油つき　下皿之も　鮫黎れ下皿

京四条通東洞院西へ入町 備前屋源右衛門
京ニ出スハ、東店せ出 仍ハ大坂ニ同じ 細工格別
ハ、深大の方よ古とくくつ所是れ細工好中甚
肥前 皿山同屋　いまり焼物
染付れ數色々
大坂同屋
同
　五郎　銅屋庄二郎
　大坂屋六兵衛
蒔具師
輪補繪　佛表具 又ハ三幅一對之中ニ高ちぐを走る 表具く古れりやぐくる 云 梵字 ゝく又 細叺をへいる和く

表褙繪　中廻しを細くしたるを云　竪物也

幢褙繪　中へりをひろくしたるを云　横物也

表具もおなじ心なるべし

小倉色紙などハ東山殿より世に極たる表具なり　絹地ハ東山殿の奇　中尾相阿弥か求

縁也　家に伝たる表具也　伝記を故によりて　表具ハ寧ろ百ある言の如く表具　夜合切也

遺様にも伝る

利休織ハ一概に表具　東山殿遠州ハ一概に表具是也　利休の頃までハ紙表具をハ書院とある

唐表具　隠逸表具と云　無也　かくしうるなり

伝曰　絶ハ後唐勤を落と云　東山殿御物表具御好く　古ハ珠光なと云を始め時代より御珠光巴付にて　語手嚼もの阿を略して伝へを改むる事三百年に　表焼失をわづか貝出度に御成ハ方申も　竜もの物也表具ハ勤め落より一方御付也

京伊勢道為丸条へ入町　表具師中尾伝休

一　古紙繕師

古筆也絵など紙也　...

手継ぎ紙にも ...

佳なる墨跡も同事也
絵にはいかなる妙なりとも絵讃なりとも墨跡によきと
さときを表具に紙にても損す脇に紙色と同事也
墨跡文字数にても好は不走を表具名人也
京御幸町通さかい町下ル町　経師　加右衛門

一　数寄屋火箸細工師
そこ表大小　長火箸色々　桑柄火箸品々
唐桑柄火箸色々　風炉火箸品々
風炉灰さらひ色々　釜の鐶　ミかきさらえん色々
釣釜の鎖品々　釣釜の鎖品々

右利休織部遠州三家道具の風かなる所望によりても
仰付次第に念入細工仕る名人也
京御幸町通東洞院東へ入町　御火箸屋宗兵衛

一　池田炭　摂州池田　丹波池田
摂州池田と炭之丹州池田ハ炭之子細有
是ハ摂州池田ハ炉に入てけむり立事ありし丹
波池田ハ炭も能大きさにかたくよくやけて炉中に
て炉に入てかしけむりたる炉は嫌ふ事なれども
故に池田をもちゆる事なれども、いかなるひも能炭ならば好也

摂州池田西之町亀屋　佐田次郎右衛門

一 白炭

和泉堺香爐　京西ノ洞院　四条通河原町向合 竹屋喜兵衛
同　六兵衛

一 竹細工

数寄　竹口　水翻　書籍　祖介

文箱　縁高

摂州有馬湯治場　名人有

一 籠細工

花入色々　茶籠大小色々　鷹臺

まりふた色々

一 羽箒細工　京寺町通四条上ル町　駿河屋長兵衛

かうはこ　たんころ　相坂　其外霜

鶴の羽本白　白鶴　黒鶴　白鳥

蒼鷺　一鷹　青鷺　野鷹　一文字　本白　鵜

せいらん　是対代銀 太鳥一対付金壱両 [illegible]

京東洞院通四条下ル町　高屋宗兵衛

一 蟇撥師

利休形ひだ　宗旦形其外蟇撥

遠州形ひだ　[illegible]

[illegible] 八代 [illegible] 蟇撥工

も今ハんやく書付る人あらむ一気八分無きにや 本

説又ハあるまじき事也

利休好み手折形　織部好み手折形　遠州好み此折形

宗和好み此手折形

此日かやうのものとて好ミもちまへ利休織部遠州宗和

此外稀也

京新町通四条上ル町　ねし又兵衛

一 曲物踏物

京松此踏物　栗此赤木　赤黒此踏おとしかけ

赤物此中物　屋根此曲物　桜此皮付此曲物

皆此ぎ曲物

京丸太町堀川東ニ入町　大坂屋市太夫

一 皮付木

ぎんちや也物　虫喰物　大曲おとしかけ

小曲房懸　細丸異木　赤色曲物

皆物ハ柿色々

京堀川通丸太町下ル町　皮付屋八兵衛

一 銅細工

花生色々古来此形多し　釣釜色々　数多

鐶花入色々　水指色々　水浴色々

一 蓋置色々　風炉 三方遠州好 色々此外ニ 唐金 菓子風炉
大小半銅形欤色々　香爐成欤色々
釣香炉色々　筆架色々　水入色々
喚鐘　置人形欤　花瓶欤　砂物鉢色々
香匙香筋　投壷　燭臺　燭架
燈檠　油瓶
傳曰ふ双比細工人也年久宗匠ニ随て八唐物
よ自然と劣りたる事也
京六条誠訪町　三宅芳庵
同　平八

一 赤金細工
尾ちん釜　たひ尾ちん釜
傳曰ヤクワント云字ナシ近代申ナラハシ人或説ニ
東照権現様之名御馬ニヤクワント申御馬有ハヤキ事
ふ双之逸足之赤金釜ニテ湯ヲハカスハヤキ事ヤクワンノ
如トテ名付其ヨリ申傳之
赤金葉入之風炉　同丸風炉
はちめ水覆　長鼓水指　童子指水指
侍合火桶
京東洞院高辻下ル町　大江屋 七右衛門

傳日新字通玉材町ヘ入ル堀〔?〕吉
小西遠州公御門ニ御付大徳寺ニ至り中村中若之
後くと段く七〇たちと云

一 裏付物ちそこ屋
東洞院通おあび町竹屋吉兵衛方ニも有 いそとかゝも有
京六条せきゝや町　松屋伝兵衛

一 数寄屋色付ちやう
京烏丸通ニ条下ル町　まつや 八兵衛
同下　同 助左衛門

一 薫物屋
薫物色々　龍涎香　白檀香

伽羅色々　名香色々有之故ニ其所ニ有る 下る
京中立売室町東ヘ入町　蒔井播磨大掾

一 古筆目利
京烏丸下立売上ル町　了佐 古筆了民
京烏丸中立売上ル町　古筆了周
京油小路通五条上ル町　樋口庄之助

一 食籠壺網打緒師
大食籠網 紅紫　壺網 紅紫　茶入網
後河打緒　京さかい打緒色々　さかい了数
京三条通柳馬場東ヘ入町　唐金屋伊織

一 唐木屋
沈香木　くわりん　たがやさん　ぞうげ
紫たん　けいたん　白たん　黒たん
其外種々此唐木
京油小路通松原下ル町　唐木屋七兵衛

一 額彫
やげん彫　中る彫
京麩屋町通竹屋町下ル町　板木屋平三郎

一 青貝細工
色々此棚　卓　香盆　湯盆

京柳馬場通三条下ル町　青貝屋七郎兵衛
京寺町通四条西入町　青貝屋庄兵衛

一 金銀天目覆輪所
京新町えひすかは上ル町　銀盤屋作兵衛

一 大仏餅
京柳馬場通押小路角　大仏餅屋庄兵衛

一 法論味噌屋
京柳の馬場五条上ル町　法論味噌屋源兵衛

一 鰹節切屋
京新町通竹屋町上ル町　一方屋安兵衛

一 精進肴引物屋 傳曰多類此まつてき肴も色々有

京冨小路通四条上ル町 大黒屋喜兵衛

一 肴菓子屋 傳曰所々にあれとも別に跡元日から菓子
多く酒の肴にする

京柳馬場通竹屋町上ル町 舟屋勘兵衛

一 御菓子

うひろう餅 此類色々 かるかん 此類色々

御所物此類色々 傳曰ある十日遠く使にても ころ
是御菓子也

干菓子類 くるみ 茶きんもち 白菓子 あられ
かるやき 一つ上 おこし 白せんべい
あるひ餅 白しもみ ちくら

京一条通烏丸西へ入町 虎屋近江

一 盆庭師

傳曰盆庭とて昔ハ盆山にて砂物にてうつしたる
抔盆だらいに色々の石を置て山水の形をうつし
澤田の洞此ひかけ橋谷のひ野からり池の嶋の
景の風を面白取たる也君子の心にかなふ
京都にも名人有

京烏丸通佛光寺上ル町 伏屋道範

一 石屋

數寄屋路地の伽石 刀掛 下踏 沓脱石

手水鉢石 古き石も色々あり

一 石焼鍋（ホウロク）色々　備前ち和石トウロ一ニし三百八百年一二ん　二道一ちらねく伊河貝塚井ニ字ちよ

京河原町通三条上ル町　石屋嘉兵衛

京一条通烏丸西江入町　河内屋喜兵衛

大坂西横堀筋ニて種々此石有之　嶋屋与兵衛

一 茶磨（チヤウス）屋

宇治ニ而もあまた作之を出す也又ハ筆ニも申すたる

人多し

京四条通柳馬場東江入町　茶磨屋庄兵衛

一 ひしお味噌（ミソ）煮梅（ニムメ）　備前丸亀郡ニ入来ル入ねら入七ら入を　好物なるもの也あ寺ノ日重宝之

京丸山霊山（リヤウセン）ニ而あらはるゝ一所ニ有之

茶之湯ニ入諸道（ショト）具京都ニ名細工（メイサイク）人ありて付々、

上売（ジヤウバイ）物ニ書付ては外無ク名ある会所とも記置（ニルシツキ）

進物（ニンモツ）ニ而ハ此調法（テウハウ）ニ外ならし広（ヒロキ）都（ミヤコ）なる人ハ手を並（ナラ）べ

をなくを有難ら手紙人あらひ又ハ縁を求尋ね
問我為数人とこまうめ紀録諸納人も先祖手紙
かく時是ひろげ候る何等もことなる候うある又如何言遠
此代人を求る如度地と是自ことならつこ候とも一ヶ所
是又物語ある本入あり八帝が有難版本へ尋一同
汀心より叶ふ様よ幾度くも存三遍之をもちて書しまうふ
也

纂所
板本

二條通富小路東ヘ入町
遠藤元閑
和泉屋茂兵衛